

虫ムシむし

アジア美術で
虫あつめ!

2021年6月24日(木)－9月21日(火)

ごあいさつ

夏は、たくさんの虫が活発に動きだす季節です。気温が上がり、植物が育ち、多くの虫たちにとって暮らしやすい環境が整います。

このたびは夏にあわせて、福岡アジア美術館のコレクションの中から、虫が登場する作品を集めました。登場する虫たちには、主役として描かれたものもいれば、わき役として小さく描かれたものもあります。かっこいい虫、きれいな虫、かわいい虫、へんな虫。作品の中から、お気に入りの虫を探してみてください。

※本リーフレット中、△の記号は画像掲載作品を示しています。

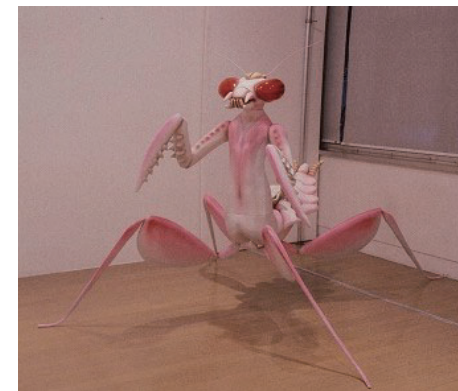
コーナー1 いろいろな虫

この部屋には、いろいろな虫が登場します。カマキリやトンボなど、なじみのある虫もいれば、見たことのない虫もいるはずです。何匹もの虫が登場する作品もあります。みなさんは何種類の虫を見つけてことができますか？

カマキリ

小さなころから、カマのような前足で獲物をとらえる、生まれながらのハンターです。

東南アジアに住んでいるハナカマキリは、名前のとおり花によく似た姿で、花に紛れて狩りをします。



ワヤン・ダルサナ (インドネシア)
《虫》、1984
アクリル・布

△角孝政 (日本)
《装甲可変生命体 マンティス、ハナカマキリ》
2002-03、FRP

ゾン・シータオ (宗錫涛) (中国)
《昆虫シリーズ No.5 (カマキリ)》、2005
墨、水彩・紙

未来の虫

これはなんの生き物でしょう？2体の生き物が、抱き合っているようです。どちらも昆虫のような羽や角が生えていますが、腕や体は人間とそっくりです。じつはこれは、作者が想像した未来の生き物なのです。



△タワン・ダッチャニー (タイ)
《未来》、1989
油彩、エナメル、金箔・画布

ヨコバイ

男の人が、田んぼの虫を調べています。船のような形の虫はヨコバイかもしれません。

ヨコバイは、お米の病気を広げてしまうことがあります。農家の人にとっては天敵なのです。



要掃除一切害人虫

△ホアン・チーゴン (黄啓庚) (中国)
《すべての害虫を除去しなければならない》、1977
オフセット・紙

ゴキブリ

日本では、縄文時代のころから人間の家に暮らしていたといわれています。人間は火を使うので、温かい場所が好きなゴキブリたちには快適なのです。

嫌われもののゴキブリですが、この作品では首から十字架を下げたり、頭に茨の冠をかぶったりして、イエス・キリストのまねをしています。



△マニユエル・オカンポ (フィリピン)
《すべてのものに開かれた天国》、1994
アクリル、コラージュ・画布

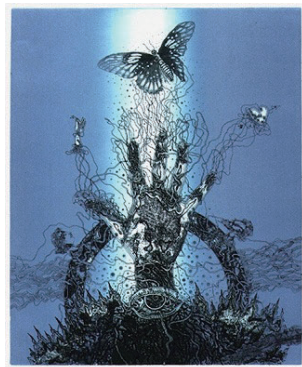
コーナー3 華麗なるチョウの世界

チョウは、羽の模様や、鮮やかな色が美しい虫です。めでたい生き物として、さまざまな地域の作品に登場します。作品を華やかにするために、飾りとして描かれることもあります。

また、優雅に舞う様子から、自由の象徴として描かれることもあります。

チョウ

チョウの羽には、「りんぷん」という小さな毛が並んでいます。「りんぷん」にはいろいろな色がついていて、そのおかげで鮮やかな模様ができるのです。



△カリダス・カルマカル (バングラデシュ)
《幻影-II》、1985
彩色エッチング、紙

イ・デワ・プトゥ・セナ (インドネシア)
《インコとコーヒーの木》、1985
アクリル・布

イスマイル・モハメド・ザイン
《このドアは次のドアへと続いている
No.2》、1989、アクリル・画布

アヌバム・スード (インド)
《捧げ物》、1989
エッチング、アクアチント・紙

ユウ・ホアリ (于化鯉) (中国)
《百花、美を競う》、1962
オフセット・紙

ルオ三兄弟 (羅氏三兄弟) (中国)
《我、北京天安門を愛す》1996-97
写真、コンピュータグラフィック、水彩、漆・板

BRAC (バングラデシュ農村向上委員会)
/アーロン (バングラデシュ)
《蓮と動植物文様/ベッドカバー》
2000、刺繍・布

シャーンティ・デーヴィー (インド)
《サーワン・プージャ》、1997
墨、顔料・コンクリート疑似壁

ニ・グスティ・アユ・ナティ・アリ
ミニ (インドネシア)
《葬儀》、1985
水彩・画布



カゲロウ

カゲロウは、寿命がとても短いことで知られています。成虫になってからは、数時間しか生きられないものもいます。大きな羽を持っていますが、速く飛ぶことはできません。風に乗って舞うような飛び方をします。



△キム・ソンヨン (韓国)
《カゲロウ》、2004/2009
ビデオ (2分10秒)

トンボ

トンボの仲間は、空を飛ぶ能力が高いことが特徴です。空中でも、急に止まったり、方向変換をしたりすることができます。

また、大きな目を持っていることも特徴の一つです。この目は、飛んでいる小さな虫をみつけることに役立ちます。

ジョン・フランク・サバド (フィリピン)
《仲介者》、2001
ペン、インク・紙

バッタ

後脚にご注目。この長く太い脚で、遠くまでジャンプすることができるのです。この作品に描かれているのは、ショウリョウバッタのようです。



△ナリニ・マラニ (インド)
《カサンドラの贈りもの7: 触覚》、2009
顔料インクによるデジタル印刷・ハーネミュール竹紙

カタツムリ

日本では、「でんでんむし」とも呼ばれるカタツムリは、貝の仲間です。一般的に、陸で暮らす貝のうち、殻があるものがカタツムリです(進化して、殻が無くなったものが、ナメクジです)。

この作品に描かれるカタツムリの触角は、先が丸くなっています。この部分は、カタツムリの目です。

ドーンディ・カンタヴィライ (ラオス)
《みなしごの笛》、1996
油彩・画布

田んぼの虫

《水の中》に描かれているように、田んぼには、ゾウリムシのような原始的な虫たちがいます。そして、それを食べる他の虫も集まってきます。

インドのワルリー地方で描かれた《ワルリー画》を見てみましょう。この地域では、クモやサソリ、アリのような虫も田んぼにいたることがわかります。



△ジッヴァ・ソーマ・マーシェ (インド)
《ワルリー画2》、1985年頃
米汁、牛糞・紙

チャン・ルオン (ベトナム)
《水の中》、1994
油彩・画布

アリ

アリは、大きな家族で暮らしています。みんなでエサをわけあったり、協力して幼虫を育てたりしています。

仲間にエサの場所を伝えるためには、おしりからでる特別なにおいを使います。他のアリはこのにおいを追いかけて歩くので、行列ができるのです。

ワー・ヌ (ミャンマー)
《春のティータイム》、2003-04
ビデオ (12分)

コーナー2 身近な場所に住む虫

ここには、家や庭など身近な場所に住んでいる虫を集めました。虫の中には、人間の生活を利用しているものや、逆に人間の生活のために、飼育されているものがあります。

アオムシ

アオムシはチョウやガの幼虫です。一番よく出会うのは、モンシロチョウの幼虫でしょう。アブラナ科の植物(ハクサイやキャベツ、チンゲンサイなど)を食べるので、畑でよく見かけます。



△ルイ・グアンティン (芮光庭) (中国)
《練習二の七(絵を見て文章を書く)》、1958
オフセット・紙

ハエ

ハエの中でも特にイエバエと呼ばれるものは、人間の生活環境に頼って生きていて、自然の中には存在しません。

ハエの仲間は、病原体を運ぶこともあるので見つけたら注意が必要です。



△作家不詳 (中国)
《コレラ、コレラ、コレラ-コレラ予防のためにハエを撲滅しよう》、1940年代
オフセット・紙

作家不詳 (中国)
《ハエ撲滅小隊》、1959
オフセット・紙

タオ・チー (陶崎) (中国)
《ハエたたきの名人》、1959
オフセット・紙

ハチ

ここに描かれているのはミツバチのようです。ミツバチは、ハチミツを作るために「養蜂家」というお仕事の人たちに育てられています。

この作品のタイトルは、「小さな袋を縫う」。縫物の針から連想して、針を持ったハチをえがいたのかもしれない。



△シェン・ダーツォ (沈大慈) (中国)
《小さな袋を縫う》、1973
オフセット・紙

クモ

エサになる虫を追って、家に入ってきます。そしてお尻から糸を出して、エサをつかまえる巣をつくります。また、メスはその糸で、卵を守るための袋を作ります。

この作品にはクモの姿はありませんが、クモの巣に見立てた、美しいレースが使われています。



△アノリ・ペレラ (スリランカ)
《もつれた蜘蛛の巣の中でI》、2001
《もつれた蜘蛛の巣の中でII》、2001
ともにワイヤーの網、紙、布、レース、糸、アクリル絵具、鉄ほか